

市民キャビネット
1周年記念シンポジウム(環境部会)
**環境リテラシー向上で
環境配慮型社会へ**

平成23年1月27日
新しい公共をつくる市民キャビネット
環境部会
福島宏希



1. 環境部会のこれまで

- 2010年7月発足
- 主な参加団体の分野は環境教育、自然保護、ネットワーク系団体など
- 今年は主に環境教育をメインテーマに活動
 - 多くの環境団体にとって共通の活動テーマ



2. 提言テーマ:

持続可能な消費/経済活動のための ライフステージごとの環境リテラシーの向上

■ 環境リテラシーとは？

- 個人・市民としての責任の認識
- 環境問題を理解したり話をしたりする能力
- 環境的なプロセスやシステムの知識
- 環境に関する分析をする能力

参照: EICネット

<http://www.eic.or.jp/ecoterm/?act=view&serial=552>

■ なぜ環境リテラシーが大切なのか

- 環境配慮行動を普及させる要
 - 人々の環境リテラシーの向上
 - それをより高める人材の存在

3. 環境配慮行動につながる環境リテラシー

課題

人工的社会がもたらす、環境の重要性に対する人々の認識の低下

人が生態系の中に組み込まれていることが認識できていない

- ・市街地の自然の消滅
- ・農山村地域の荒廃

環境配慮行動を促進するリーダー的存在の不足

人々の環境配慮行動をけん引することのできる、想い、行動力、スキルを持った人材が不足している

- ・ローカルなレベルでのリーダーシップ
- ・国際的なレベルでのリーダーシップ

必要とされる行動

- ・人が自然の一部であることの体験と気づきを与える
- ・生きものが多様な自然の中での遊びなどの経験を通じ、自然や生きもののシステムを体で理解し、バランスがとれた人として成長することを促す

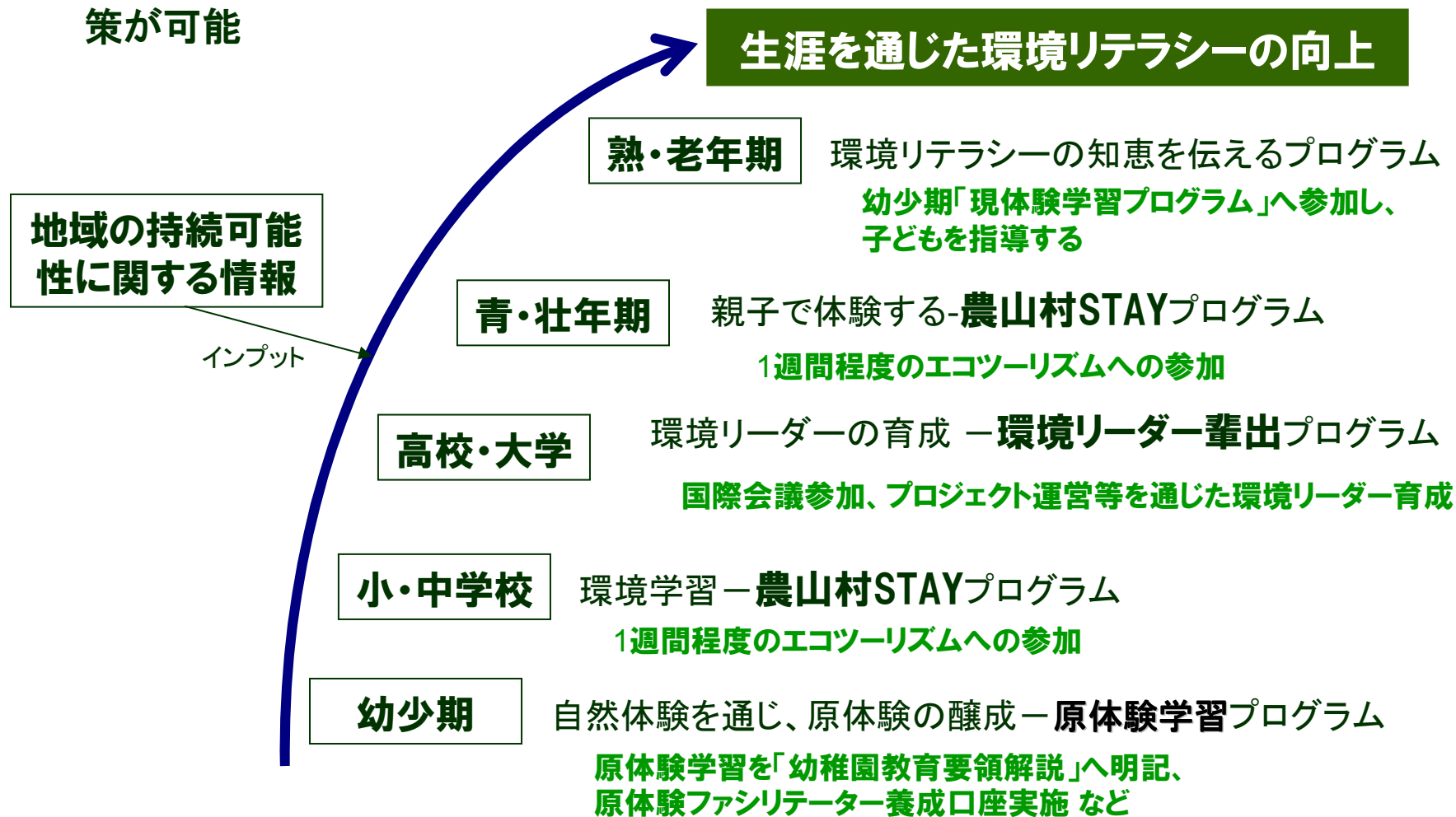
- ・なぜ環境に配慮した消費行動が重要なのか、具体的にどのような点に着目して商品を選択していけばよいのかについての認識を向上させる(ローカルレベル)
- ・国際的な環境の議論をリードし、環境対策が世界的により促進されることを促す(国際レベル)

人々の環境リテラシーの向上

環境配慮行動

4. ライフステージごとの施策

- 市民キャビネットならすべてのライフステージに対応した環境リテラシー向上施策が可能



5. 本提言の特長

現状の課題		本提言の特長
人生のある段階でどのような環境教育プログラムを受けることが最適か分からない	→	ライフステージごとに必要とされるニーズに対応した環境教育プログラムがセットになっており、学習から実践まで最適な環境行動を起こすプログラムを提供できる
類似のプログラムをいくつもの団体が提供しているが、相互に情報交換・連携があまりない	→	本プログラムに参加する環境教育を実践しているNPOの全体像を把握することができ、提供すべきプログラムのモレ・ムダをなくすことができる
どの環境NPOがどのようなプログラムを提供できるのか、外部からは分かりにくい	→	全てのプログラムは市民キャビネット環境部会所属の環境NPOで提供可能。受付窓口にご相談をしてもらえれば、ワンストップでプログラムを提供できる



6. 本提言が実現されると・・・

- 環境問題への国民の本質的理解の促進が進み、より正確な行動が促される
- 「環境」を媒体にして、より範囲の広い以下の便益も提供することができる
 - 全人格的教育
 - 若者のコミュニケーション力の向上
 - 社会のつながりの増進



7. 環境部会のこれから

- より多くの団体（団体数、分野共に）が参画しやすい仕組みづくり
 - 政策提言の流れを明確化
 - 政策提言以外の関わり方の模索
- 政府の次年度予算編成が動き出す5月～6月を照準にした提言の取りまとめ